

～ひとごとではなく、「自分ごと」、「みんなごと」として市民・行政が協働！～
“みんなごと”のまちづくり推進事業

「まちづくり・お宝バンク」市民サポーター 派遣業務

令和2年度 事業実施報告書

令和3年4月

事業実施者：特定非営利活動法人きょうとNPOセンター

1. 市民サポーター派遣業務を実施しての成果、業務の課題

“みんなごと”のまちづくり推進事業「まちづくり・お宝バンク」市民サポーター派遣業務（以下、本業務）は、過去4年間に引き続き、令和2年度も特定非営利活動法人きょうとNPOセンターが業務実施者として運営を行い、京都市がもっとよくなる、もっと住みやすくなるための市民による「まちづくり」の支援を目指し業務を実施した。

<成果>

令和2年度は、新たな市民サポーター派遣機会の創出と、登録サポーターのモチベーションの維持向上を大きなテーマとして、以下の活動に取り組んだ。

1. 研修交流会等の開催

研修交流会等を2回開催した（令和2年9月、令和3年3月）。市民サポーター派遣機会創出のため、他地域の同様の取り組み事例の紹介や本事業を利用した団体、市民サポーターの座談会、意見交換会を開催した。その結果、新たな市民サポーター登録にもつながった。（詳細は、6. 研修・交流会等に記載）

2. コロナ禍に対応した市民サポーター派遣

ITに強い市民サポーターから、LINEやZoomなどのオンライン会議ツールに関するサポート提供の申し出があった。コロナ禍において、そのようなニーズが高まっていることから、オンラインコミュニケーションに特化した市民サポーター派遣の利用について「市民サポーター通信」で呼びかけ、2団体の市民サポーター派遣につながった。

3. 「市民サポーター名刺」（全市民サポーター）と「市民サポーターHANDBOOK」の配布（新規登録サポーター）

4. メールマガジン「市民サポーター通信」の発行

5月から毎月1回、メールマガジンを発行した。内容は、団体への派遣内容の紹介、事務局主催のイベント案内、市民活動分野に関するミニコラムなどで構成した。そのほか、市民サポーターへのアンケートなどの臨時号も含め15本のメールを配信し、タイムリーな情報を届けてきた。

こうした活動の結果、令和2年度は17団体から20件、合計30回の市民サポーター派遣依頼を受け、延べ35名の市民サポーターの派遣につながった。また、市民サポーター派遣を利用したいという団体から、新たに4件の「まちづくり・お宝バンク」への取組提案につながった。

<課題認識>

本業務は、“みんなごと”のまちづくり推進事業の一環として、「まちづくり・お宝バンク」取組提案団体の活動支援による市民のまちづくり活動の充実を目的に行われているものである。限られた回数の中で課題解決につなげるためには、取組提案者・団体の課題や悩みを絞りこみ、言語化する必要がある。そのことで、適切な市民サポーターをマッチングすることができる。

市民サポーターもこの5年で80名を超える規模となった。事務局が全てのサポーターの情報を随時アップデートするのは難しい。市民サポーターの派遣にあたっては、これまでの派遣実績のある方に偏る傾向にある。市民サポーターの機能的再編をしていく必要があると考えている。

これらを実施していくことにより、お宝バンクの『お宝』度をさらに上げていくことが今後の課題と認識する。

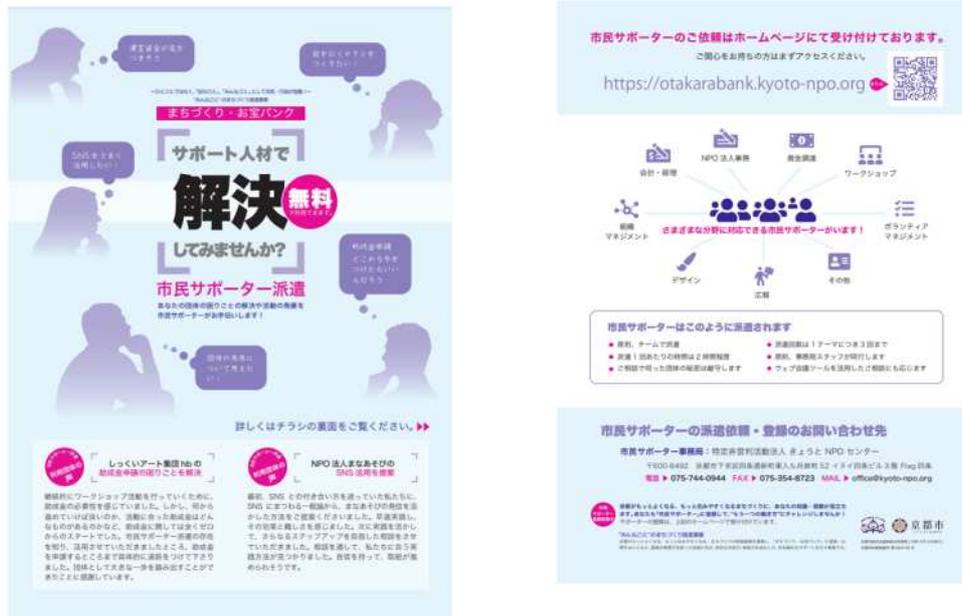
2. 派遣業務広報

<実施内容>

(1) 市民サポーター・派遣団体募集チラシの作成

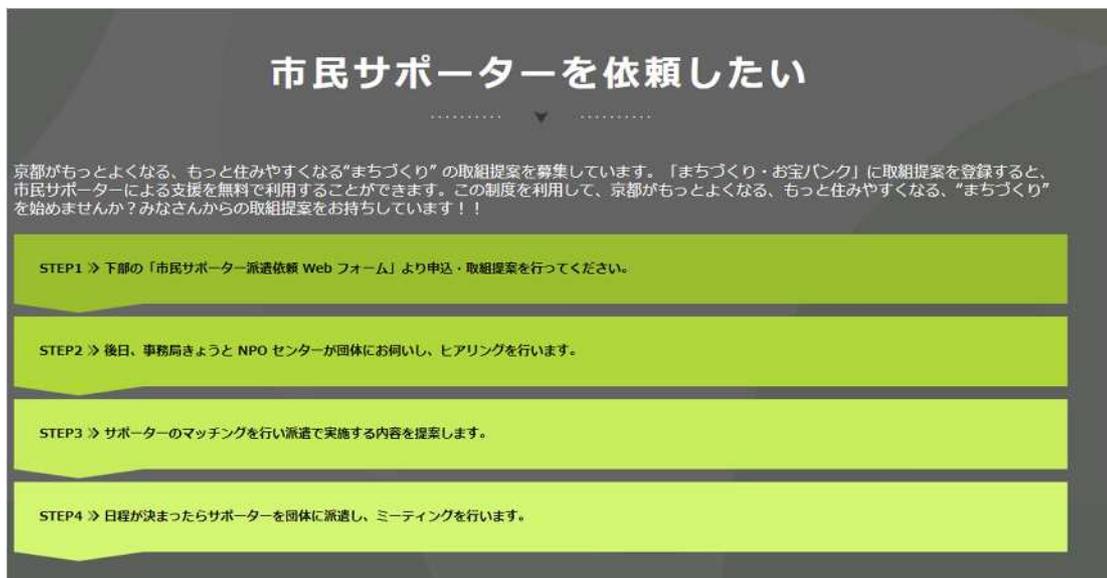
昨年度同様、今年度についても市民サポーターの派遣依頼を受けることを主眼に置いたチラシを制作した。市民サポーター派遣制度の利用を促すため、「まちづくり・お宝バンク」取組提案者・団体の困りごととして想定されそうなテーマ（広報、ファンドレイジング、事業ビジョン等）を大きく配した。それとともに、利用者の声も掲載し、市民サポーター派遣制度を利用したいと思ってもらえるような工夫をした。

印刷部数：2,000部 主な配布先：市内各公共施設、これまでの市民サポーター受入団体など



(2) 「まちづくり・お宝バンク」市民サポーター派遣業務特設ページの設置

きょうとNPOセンターホームページ内の市民サポーター派遣業務に関する特設ページを更新した。



3. 市民サポーターに関すること

<実施内容>

(1) 市民サポーター名刺の配布

登録済みの市民サポーターに対して、市民サポーターとしての名刺を作成し、配布した。市民サポーター派遣時に活用できるよう、市民サポーターからのひとこと自己紹介や派遣先へのメッセージ、市民サポーターの連絡先などが記入できるような仕様とした。また、新たに登録された市民サポーターには「市民サポーターHANDBOOK」の配布を行った。HANDBOOKでは、派遣時に注意すべきマナーや守秘義務について、実際のサポート活動を行うときのミーティングの組み立て方などについて、具体例や留意点を簡潔に解説している。



(2) メールマガジン「市民サポーター通信」の発行

昨年度からの継続取組として、事務局から登録サポーターへの定期的な情報提供ツールとして、メールマガジン「市民サポーター通信」の配信を始めた。毎月1回、臨時号3回で計15回発行した。コンテンツとしては、市民サポーターの派遣状況、市民活動に関するミニコラムとして「市民活動豆知識」を毎号掲載した。その他に、市民サポーター派遣制度に関するイベントの告知や市民サポーターの現状を理解するためのアンケートなどを行った。

市民活動豆知識 テーマ一覧

配信日	テーマ
第12号(2020年5月6日)	NPOにはどんな種類があるのでしょうか?
第13号(2020年6月3日)	NPO法人での「社員」と株式会社の「社員」の違いとは?
第14号(2020年7月1日)	NPOの資金源にはどのようなものがあるのでしょうか?
第15号(2020年8月5日)	クラウドファンディングとは?
第16号(2020年9月2日)	NPOで働くとは?
第18号(2020年10月7日)	ファシリテーターとは?
第19号(2020年11月4日)	プロボノとは?
第20号(2020年12月2日)	ソーシャルビジネスとは?
第21号(2021年1月6日)	アドボカシーとは?
第22号(2021年2月3日)	パートナーシップとは?
第23号(2021年3月3日)	ステークホルダーとは?

※第17号は、市民活動豆知識の掲載はなし

4. 市民サポーター登録の受付と更新

本年度は新たに5名の市民サポーターの登録を行い、総登録人数は87名となった。

市民サポーター登録者数87名の内訳

(令和3年3月末)

一般56名、京都府行政書士会31名

男性60名(一般38名、京都府行政書士会22名) 女性27名(一般18名、京都府行政書士会9名)

登録サポーターのスキルについて(重複あり)

会計	15名(一般6名、書士会9名)
NPO法人事務	23名(一般13名、書士会10名)
組織診断・基盤強化	15名(一般11名、書士会4名)
人材育成	18名(一般13名、書士会5名)
資金調達	20名(一般12名、書士会8名)
ボランティアマネジメント	11名(一般10名、書士会1名)
組織マネジメント	28名(一般23名、書士会5名)
事業マネジメント	30名(一般23名、書士会7名)
広報	17名(一般15名、書士会5名)
デザイン	6名(一般5名、書士会1名)
外国語・異文化交流	5名(一般4名、書士会1名)
IT環境整備	4名(一般4名)
PC活用	15名(一般15名)
ファシリテート	8名(一般7名、書士会1名)
ワークショップ運営	9名(一般8名、書士会1名)

5. 研修・交流会等

実施内容

(1) 「まちづくり・お宝バンク」市民サポーター派遣 講演会・座談会

日時：令和2年9月24日（木）18：30～20：30

会場：京都経済センター 3-3F 会議室

プログラム内容

1. 基調講演『自分の経験を社会に活かす新しい生き方とは』

杉岡秀紀（福知山公立大学 地域経営学部 准教授）

2. 市民サポーター派遣利用団体×市民サポーター×杉岡先生による座談会

参加：19名（スタッフ含む）

基調講演では「プロボノ」の紹介があった。プロボノは、法律や会計、広報といった職業上の専門性を活かし、公益活動に無償で携わる活動を意味する。最近では、神戸市や福知山市をはじめ公務員のプロボノを推進する動きが生まれている。市民サポーター派遣への新たな展望として、公務員の市民サポーター登録に力を入れてみては、との提案があった。地方公務員ではなく、地域公務員として地域に飛び出し、活躍して行ってほしいとの期待が寄せられた。

後半は、市民サポーター派遣制度利用団体の大松有香氏（NPO 法人まなあそび 代表理事）、市民サポーターの生駒豪康氏（NPO 法人やさしいデザイン 理事長）、杉岡先生による座談会を開催した。大松氏からは「いろいろとサポートをしてもらい、大変助かっている。1つのテーマについてサポートをしてもらっているうちに、これもサポートしてほしいと次のテーマが生まれてきた」、生駒氏からは「市民サポーターを通じて末広がりな出会いが生まれている」「小さな勇気を持てば、市民サポーターはできるのでは」との意見が出た。最後には「問い」を持つことの大切さについて議論した。アンケートでは「知人・友人にもこの制度について教えた」「このような講演会等を今後も実施してほしい」との声が多数あがった。



基調講演の様子



座談会の様子



チラシ

(2)「まちづくり・お宝バンク」市民サポーター派遣 講演会・意見交換会

日時：令和3年3月6日（土）14：00～15：30

会場：オンライン（Zoom）

参加：19名（スタッフ含む）

プログラム内容

1. 基調講演『共感が推進力、社会人チーム/パートナーNPOのプロジェクト～越境した社会人が当事者として社会に関わる仕組み～』

藤木位雄氏、小堀誠也氏（特定非営利活動法人二枚目の名刺 サポートプロジェクトデザイナー）

2. 市民サポーター派遣利用団体による意見交換会

基調講演では、プロボノのサポートをしているNPO法人二枚目の名刺の取組みについて紹介があった。

講師の藤木氏、小堀氏は当初、プロボノとして関わっていた。現在はプロボノとNPOをつなぐプロジェクトデザイナーとして活躍をしている。そのプロセスにはどのような出会いや気づきの変化があったのかについて説明があった。当法人では、共感をベースとしたつながりを大切にしている。そのことで、NPOなどのコアファンが生まれている。プロボノである社会人は「支援する側」だけではなく、自身の成長を「支援されている」との指摘があった。参加者からはプロボノ参加者の年齢構成や財源、行政・企業との連携の在り方などについて質問があった。

意見交換会では、①市民サポーターと団体とのマッチング、②市民サポーターとのコミュニケーションの在り方について話し合った。①については「事務局による事前ヒアリングを踏まえてのマッチングだったので、大きな問題はなかった」「市民サポーターにどのような方がいるのか分かれば、自分たちもマッチングに関わる選択肢が増えたかもしれない」、②については「派遣回数が3回ということで、スケジュール管理がしやすかった」「テーマによっては、3回ではなくもう少し派遣回数があってもよかったかもしれない」「事務局を通して市民サポーターとやりとりをしていた。もっと気軽にやりとりができてよかった」などの声があがった。



事務局報告



基調講演①



基調講演②



意見交換会